

1 時 間（場所） 11:10～12:00（3年C組教室）

2 個人研究テーマ

他者との対話的な学びを通して文学作品を読み深める力の育成

3 研究テーマ設定の理由

多様でありかつ変化が激しいこれからの社会を生きる生徒たちは、将来誰も推測しなかった状況に陥ることがあると考えられる。その中で、持続可能な社会を創造するためには、単に知識や技能を身に付けることだけに留まらず、既知のことを活用して新たなものを生み出したり、他者の力を借りて知恵を結集させたりして、自分たちで現状を打破していく力が求められる。持続可能な社会は多様な主体が状況や相互関係に応じて互いに連携・協力することにより構築されるものである。

昨年度の研究で、文学作品を読み深めるための話し合い活動を中心とした対話的な学びが、他者と自分の読取を対照し、自分の考えを広げたり深めたりするのに有効であることが分かった。さらに、意見交流のために必要な論理的な思考力・表現力を身に付ける道筋も明らかになった。今年度も引き続き対話的な学びを充実させ、学習者が他者と協同して学びに向かおうとする力を高めたい。

文学作品を読み深めるための対話的な学びを中心に授業を構成することによって、他者と協同して課題を解決していく力を育成することができると考え、本研究テーマを設定した。

4 単元名 自分の考えを言葉で伝え合おう ―「句会をひらく」―

5 単元目標

他者との対話によって俳句の読みをさらに深め、自分のものの見方や考え方をより豊かなものにすることができる。

〔本質的な問い〕

俳句の読みにおいて、自分のものの見方や考え方を豊かにするにはどうすれば良いだろうか。

〔永続的な理解〕

自分のものの見方や考え方を豊かにするには、他者との対話を通して互いの読みを交流することが有効である。

6 本単元と研究テーマとの関わり

(1) 生徒について

生徒たちは、文学作品を読む授業において、他者と意見交流することによって、自分の考えが変わったり、新しい発想を得たりして、より深い学びにつながることを実感している。

また、他者に分かりやすく自分の考えを伝える力を身に付けさせるために、授業においても問答ゲームに取り組んできた。話し合い活動においては、自分の考えを根拠を明らかにして伝え合う様子が見られ、多くの生徒に論理的思考力・表現力が身に付いてきていると考えられる。

しかし、昨年度までの取組で、主体的な学びについては不十分であったとの反省がある。本来は読み手である生徒が自由に読んだり、自ら疑問に感じたことを話し合ったりすることで文学作品を読み深めるべきところを、教師が学習課題を設定し、目的を与えて文学作品を読ませてしまっていた。それによって、生徒は自分なりの読みの疑問や課題意識を持たずに文学作品の読みや学びに向かおうとする受け身の姿勢になりがちであった。

正岡子規生誕の地で生活する生徒たちにとって俳句は身近であり、小学校からの学習でも俳句について学習しているため、興味を持っている。また、2年生のときに短歌、3年生で島崎藤村の「初恋」を学習し、定型詩ならではの洗練された言葉の巧みさや表現の工夫に魅力を感じ

じている。さらに、俳句について知識を習得するだけでなく、学びを深めるために有効であると考えられる対話的な学びが充実すれば、主体的に文学作品を読み深める力が高まるとともに、他者と協同して課題を解決する力も育成できると考える。

(2) 単元について

本単元の題材である俳句は、世界に誇る日本の言語文化の一つである。また、有季定型を原則に、洗練された言葉や表現を用いた言語芸術であるといえる。俳句を読むことで、様々な表現の方法を学んだり、効果的な表現の仕方について評価したりすることで、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。また、巧みな表現に込められた詠み手のものの見方や考え方を読み取ることを通して、自分のものの見方や考え方を豊かにすることができる。

本単元では、「創作」「鑑賞」「句会」を主な言語活動として構成している。俳句を「創作」することから始めるのは、学習者の思考や意欲に合わせたからである。創作することで「どのように俳句を作ればよいのか」という疑問が生まれ、「俳句について学びたい」という意欲につながり、能動的な姿勢で俳句の作り方を学ぶことで、基礎的な知識も十分に定着すると考えた。さらに、「もっと良い俳句を作るにはどうすれば良いか」という思いが、「有名な俳句を読んで学びたい」へとつながり、「鑑賞」の活動への意欲付けになると考えた。「鑑賞」は、「創作」のために学んだ知識を生かして、更に深い読取が可能となる。

単元末に「句会」に取り組ませることで、それまでに得た俳句に関する知識を活用する力や他者と考えを練り合う話し合い活動を行うための論理的思考力・表現力、他者と協同して課題を解決する力などを向上させたい。ただし、本単元末の言語活動である「句会」はあくまで俳句の読取を深めるための手段であって、「句会」をすることで話したり聞いたりする力を伸ばすことが目的ではない。

本単元では、「俳句」の学習を通して、言葉や表現から詠み手のものの見方や俳句に込められた思いを読み取り、対話的な学びで多様な考えに触れさせ、自分のものの見方を広げたり、考え方を深めたりさせたい。

(3) 指導について

本単元の「他者との対話によって俳句の読みをさらに深め、自分のものの見方や考え方をより豊かなものにすることができる。」という単元目標を達成するために、対話的な学びを充実させる以下の2つの指導の工夫をする。

まず一つ目は、主張に対する根拠を明確にして、文章を読んだり、話したりさせることである。対話的な学びにおいて自分の考えを他者に分かりやすく伝えるためには、主張を裏付ける根拠を明確にしなければならない。文学作品を読み深めるための話し合い活動において、自分の考え（主張）を分かりやすく伝えるための根拠となるのは、本文に書かれてあること（事実）とその本文から解釈したこと（理由づけ）である。この主張―事実―理由づけの3つの要素を明確にして読み取ったことを話し合わせることで、互いの考えを理解し合うことができる。そして、意見交流によって自分と他者の考えを比較し、自分の考えを再構築することが文学作品を更に読み深めることにつながる。

学習者の学習意欲を高め、進んで学習活動に取り組もうとするための工夫である。創作俳句を使った「句会」に取り組ませることも、主体的な学びを実現するための工夫である。「自分たちが作った俳句の中で一番良い俳句はどれかを決める」という課題は学習者の学習意欲を駆り立てるとともに、話し合い活動を通して全員が協力して課題を解決していくため主体的な学びを生み出す。

二つ目は、教師がファシリテーターの役割を担うことである。生徒による協同的な学びがスムーズに、かつ深まりあるものにするためには、教師がどのような場面でどのように話し合いに関わるかが重要である。まずは、意見を引き出すために、明確な解のない発問を用いることである。「初恋」（島崎藤村）では「二人が恋する気持ちが最も高まっているのはどの部分か」、「故郷」（魯迅）では「主人公である『私』にとっての希望とはどのようなものか」、「誰かの代わりに」（鷗田清一）では「『誰かの代わりに』の後にはどのような文が続くだろうか」といった読みの課題に対する解には、本文をどのように解釈したかという読み手の考えが反映される。このような発問で話し合わせることで意見交流を活発にさせる。また、話し合い中は生徒

の発言について他の生徒に付足や反論，質問をさせることで，教師主導ではなく学習者同士の意見交流になるように支援する。このように，教師がファシリテーターとしての役割を担うことで，学習者は協同して学ぶことに価値を感じることができるであろう。

以上のような指導の工夫をすることで，単元目標に迫りたい。

7 評価目標と評価方法

評価目標（観点）	評価方法（視点）
① 俳句の言葉や表現に表れる詠み手のものの見方を読み取り，他者との対話的な学びによって，自分の考えをさらに深めようとする。 （関心・意欲・態度）	◎ パフォーマンス課題 各自が創作した俳句を使って句会をします。各班から選ばれた俳句の中から優勝俳句を決めていく句会です。これまでの学習で学んだことを生かして，自分が選んだ俳句の良いところを見付け，その俳句の良さが友達に伝わるように分かりやすく発表しよう。 （評価目標の①②③）
② 俳句の中の語句の効果的な使い方や表現の工夫を捉え，読み味わったことを根拠を基に自分の言葉で捉えることができる。 （読むこと）	○ 観察 （評価目標の①②③） ○ ワークシート （評価目標の①②）
③ 俳句独自の表現や精選された言葉を吟味することを通して，俳句に関する知識を広げ，語感を磨き，語彙を豊かにする。 （伝統的な言語文化と国語に関する事項）	

8 指導計画（全9時間）

次	学習内容	評価規準（観点）	時間
1	俳句を詠もう。（創作） ○ 提示された十二音に複数の季語の中から一つ選んで，俳句を完成させる。 ○ 切れ字の種類や効果について学び，切れ字を用いた俳句を創作する。 ○ 取り合わせの手法を用いて，長期休みの課題俳句を作り直す。	◇ 自分の思いや考えが伝わるように，表現を工夫したり，言葉を吟味したりして俳句を創作しようとしている。 （関心・意欲・態度） ◇ 季語や切れ字といった俳句独自の言葉や表現技法について理解し，語感を磨き語彙を豊かにしている。 （伝統的な言語文化と国語に関する事項） ◇ 俳句に用いられている語句の効果的な使い方や表現上の工夫を読み取っている。 （読むこと）	3
2	俳句を読もう。（鑑賞） ○ 夏目漱石の俳句を鑑賞し，自分の考えをまとめる。 ○ 鑑賞したことを，話し合い活動で共有する。	◇ 俳句に用いられている言葉や表現に表れる，作者のものの見方を読み取ろうとしている。 （関心・意欲・態度） ◇ 対話的な学びで共有したことを参考にしながら，俳句の内容や言葉の意味，表現の効果などを読み取っている。 （読むこと）	2
3	句会をひらこう。（句会） ○ テーマに沿った俳句を自由に詠む。 ○ 句会を行い，創作俳句を批評し合う。	◇ 対話的な学びによって，他者と自分の読取を対照し，俳句を読み深めようとしている。 （関心・意欲・態度） ◇ 語句の効果的な使い方や表現上の工夫から読み取った詠み手の思いやものの見方を，対話的な学びを通して読み深めている。 （読むこと）	4 本時 その3

9 本時の指導（8/9時間）

(1) 主 題 句会を通して自分の読取を深めよう。

(2) ねらい

○ 俳句に用いられている言葉や表現から情景や詠み手の思いやものの見方を読み取り，対照することで，自分のものの見方を豊かにすることができる。

(3) 展 開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価（方法）
1 パフォーマンス課題と本時の学習課題を確認する。 （一斉）	5	○パフォーマンス課題と本時の学習課題を確認しよう。 自分が気に入った俳句を優勝俳句にすることができるだろうか。	○見通しを持って学習活動に取り組ませるために、パフォーマンス課題と学習課題を示し、達成目標を意識させる。
2 決勝に残った五句の俳句を読む。 （一斉）	5	○俳句に詠まれている情景を想像しながら、声に出して読もう。	○情景や詠み手の思いを想像したり、意味の切れ目を考えさせたりするために、音読させる。
3 気に入った俳句を選び、その俳句の良さを考える。 （個人） （ペア）	5	○気に入った俳句を一句選び、その俳句の良さを読み取ろう。	○俳句に用いられている言葉の効果的な使い方や工夫された表現などに注目させるために、俳句を視写させる。
4 話し合って互いの考えを伝え合う。 （全体）	2	○俳句から読み取ったことを分かりやすく主張できるように、自分の考えを整理しよう。	○俳句から読み取ったことを、分かりやすく説明するために、問答ゲームで根拠を明確にさせる。
		○それぞれの俳句の良さが伝わり、周りが共感するような説明をしよう。 ・季語が情景をより具体的に表現しているから、季語が効いていると思う。 ・切れ字の「や」を用いることで、上五で情景が切り替わっているのがよい。 ・詠み手の思いを具体物に例えて表現しているところに工夫を感じる。 ・使われている言葉に意味の重なりがなく、洗練された言葉が用いられている。	
5 優勝俳句を決める。 （全体）	3	○話し合いを通して、最も良いと思った俳句を一つ選び、多数決で優勝俳句を決定しよう。	○自分の考えを整理させるために、俳句を選んだ理由をワークシートに書かせる。
6 本時の学習を振り返る。（個人） （全体）	5	○自分の考えが深まったのは、誰の、どんな意見だっただろう。	○次時の学習につながるように、対話的な学びの学習内容を振り返らせる。
授業研究の視点	○問答ゲームは、自分の考えを論理的に思考し表現する力の育成につながっていたか。 ○俳句の良さについて伝え合う活動は、生徒の考えを広げたり深めたりして、俳句を読み深めることにつながっていたか。		